



工業会

The Japanese Association For Non-Destructive Testing Industry (JANDT)

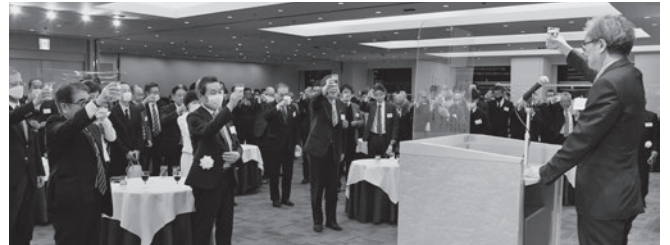
発行元 一般社団法人日本非破壊検査工業会
〒101-0047
東京都千代田区内神田2丁目8番1号 富高ビル3F
電話 03-5207-5960 FAX 03-5207-5961
URL : <https://www.jandt.or.jp/>
編集 : 広報部会

令和5年 非破壊検査業界 新春賀詞交歓会を開催

1月10日(火)、東京都千代田区の東京會館LEVEL XXI(レベル21)にて「非破壊検査業界 新春賀詞交歓会」を開催し、来賓及び業界関係者など約150名近くの方々にご出席をいただいた。

開催にあたり、長岡康之理事長は「2022年は、工業会が50周年を迎えた。次なる75周年、100周年に向かって、いままで以上に魅力ある団体とするために、会員満足や会員相互のコミュニケーション活性化に取組み、会員ファーストの精神で運営していく。2023年度から国土交通省が管理する道路橋点検業務にインフラ調査士等の国土交通省登録資格などの資格保有者を現場に配置することが義務付けられ、点検業務の質がより一層向上し信頼できるものになる。また、昨年末の国交省道路局国道・技術課との意見交換会に引き続き、建設コンサルタンツ協会との技術交流会を計画している。このような取組みで、点検技術の精度をより一層向上させていく。」と挨拶した。

続いての来賓挨拶で、斉藤鉄夫国土交通大臣は「2012年12月の笹子トンネル天井板崩落事故から10年が経った。当時の太田昭宏国土交通大臣は、社会資本の老朽化対策として2013年を整備・メンテナンス元年にすると訴え、防災・減災、老朽化対策として、膨大な社会インフラに順番をつけて緊急点検・調査・修理・メンテナンスを進めた。今後も、今ある社会インフラをできるだけ永く後世に伝えるための非破壊検査であるとの精神を引き継いで、次なる10年に向けて、皆様方の非破壊検査技術でしっかりとつなげていく所存である。」と述べた。続いて、太田昭宏公明党元代表・現党常任顧問は、「今年は、原点回帰が必要な大事な年となる。1965年頃から数多くの橋梁等が建設され50年以上が経過し、その劣化の延長線上に天井板崩落があった。1923年の関東大震災から100年となる今年は、南海トラフ地震等を想定し中核をなす社会インフラの安心安全に向け、



賀詞交歓会のもよう

腰を据えた点検・整備が必要、日本の未来のために非破壊検査技術を発揮し安心安全のために活躍していただく重要な年となる。」と述べ、古屋範子衆議院議員は「笹子の事故以降、皆様の技術をお借りして防災・減災等に取り組んできた。」とご挨拶いただいた。

経済産業省製造産業局の安田篤産業機械課長は「昨年は、コロナ禍からの経済回復を目指す中でのウクライナ侵攻や原材料高等があり、その影響が残る中、経産省としてGX・DX・経済安全保障の3点を軸とし、この観点で経済再生に取り組んで行く。また、50周年を迎えた非破壊検査工業会の皆様は、インフラメンテナンスにおいて国民生活の安心安全の礎を担っており、感謝申し上げます。」と、日本非破壊検査協会の井原郁夫会長から「非破壊検査技術は我が国の産業界の発展と安心安全な社会構築及び維持に重要な役割を担っている。非破壊検査工業会と当協会が連携することで、大きな社会貢献ができるかと確信している。今年も引き続きご支援ご協力をいただきたい。」とのご祝辞をいただいた。

来賓挨拶を経て、日本溶接協会の栗飯原周二会長は「人手不足への対応として溶接協会では、女性活用を声高に申し上げており、女性の支援・啓発・教育を通じて人材確保に努めている。非破壊検査工業会とは互いに手を携えて、女性人材等の育成と活用等について連携を図って行きたい。」と挨拶し乾杯とした。その後、会場を埋めた出席関係者により歓談の輪が広がり、新年の挨拶が交わされていった。



長岡 康之
理事長



斉藤 鉄夫
国土交通大臣



太田 昭宏
公明党元代表・現党常任顧問



古屋 範子
衆議院議員



安田 篤
産業機械課長



井原 郁夫
JSNDI会長



栗飯原 周二
JWS会長



令和4年度 合同例会を開催

機材支部（猿渡保支部長）は10月6日、横浜市港北区の新横浜グレイスホテルで2022（令和4）度合同例会を開催し、65名が参集した。主催者を代表して挨拶に立った猿渡支部長は、3年ぶりの合同例会開催に当たり、出席者及び開催にこぎつけた関係各位に謝辞の述べたうえで、「今回の合同例会が6月の創立50周年記念式典以来の4支部が集う貴重な機会となった。本部報告や各部会長による部会報告などで、当工業会の活動内容に理解を深めていただき、末永くご支援・ご協力をお願いしたい。」と述べた。

続いて、挨拶に立った長岡康之理事長は、「理事長就任時に掲げた三つの柱、①インフラ調査士資格の国直轄工事をやった地方公共団体への普及活動等の事業継承、②会員相互のコミュニケーション活性化、③仕事や技術に関して自由に意見交換などができる場所や仕組みを構築し、会員満足度の向上と魅力ある工業会を目指し邁進する。」と述べた。

本部報告として、埴晴行専務理事は運営会議について「理事会直下に、工業会全体の運営を円滑化する位置付けで新たに設置した。」と述べた。続いて小田原勝彦広報部会長、安田裕之技術部会長、坂本敏弘教育部会長、錦戸陽介認証部会長、猿渡保安全部会長がそれぞれの部会報告を行った。

休憩を挟んで行われた特別講演は、座長を舟久保利明機材支部監査が務め、東京工科大学の香川豊副学長による「近未来の信頼性確保技術開発へのチャレンジと新素材への応用」と題し、セラミックス複合材料の解説やAIを利用した損傷検出、デジタルツインを活用した将来の非破壊検査技術などについての講演が行われた。

渡邊正宏東日本支部長による閉会挨拶の後、場所を移して懇親会が催された。美濃部光正機材支部副支部長の司会進行のもと、清水重之西日本支部長及び松村康人顧問の挨拶で開会し、錦戸陽介副理事長の乾杯の音頭で歓談の輪が広がった。催し物として「ハッピー&ブルー」による歌謡ショーが会場を沸かせ、富田裕樹関西支部長の中締めで散会となった。



合同例会のもよう



長岡 康之
理事長



猿渡 保
機材支部長

K 経験豊富な実績
E 笑顔で、業務に取り組みます
I いつでもどこでもあらゆるニーズにお応えします

放射線透過試験／超音波探傷試験／磁粉探傷試験／浸透探傷試験
 過流探傷試験／漏れ探傷試験／レーダー探査／気密・耐圧試験

KEI 京浜検査工業株式会社

原子力規制委員会使用許可・CIW認定業者

本社：横浜市金沢区福浦2-6-10
 TEL：045-701-2072 FAX：045-784-4100
 山形営業所：山形県南陽市若狭郷屋253-2
 TEL：0238-43-8100 FAX：0238-43-8108

豊かな経験・確かな技術

非破壊検査全般 ◆ 建築物設備配管劣化診断 ◆ コンクリート躯体調査・埋設物調査

JASCO 株式会社 ジャスコ
 JAPAN SKIAGRAPH CO., LTD.

本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-23-3
 TEL 045(473)5140 FAX 045(473)5141
 札幌営業所 〒003-0833 札幌市白石区北郷3条11-4-20
 TEL 011-875-4166 FAX 011-875-0666
 E-mail: eigyou@kk-jasco.co.jp http://www.kk-jasco.co.jp/

アンカー工事
 スタッド
 ハツリ
 耐震補強

引張試験
 レントゲン
 鉄筋探査

ダイヤモンド
 コアビット
 ハンドカッター販売
 カップサンダー販売
 道路用ブレード販売

ギス
 アクリ
 打設
 ドイ
 コヤ
 アモ

社団法人 日本建設あと施工アンカー協会加盟

中央総業株式会社

神奈川県相模原市南区相模大野3-20-1 中央総業ビル4F
 ☎ 0120-07-1222 FAX 0120-07-5585

JEC 日本エンジニアリング株式会社

◆ 鋼、コンクリート構造物の調査・各種試験
 ◆ 各種プラントの目視検査・非破壊検査
 ◆ その他非破壊検査業務全般

〒210-0012
 川崎市川崎区宮前町7番15号

TEL 044-245-8311
 FAX 044-245-8318
 E-mail jec@nihoneng.jp
 URL http://nihoneng.jp/homepage/

未来を見守る
 確かな技術

東日本支部 年末例会を開催

東日本支部（渡邊正宏支部長）は12月6日、川崎商工会議所で2022年度年末例会を開催した。コロナウイルス感染拡大の影響を受け昨年同様、各社1人の出席に制限される中、約30人が参加した。冒頭に渡邊支部長は、令和4年度の事業計画に則り会務・委員会報告を行ったうえで「支部会員の拡充を図るため、事業活動を通じて積極的な勧誘活動を実施していきたい」と挨拶した。

その後、山下勇次税理士事務所の山下勇次氏を講師に招き、「インボイス制度について」をテーマとした特別講演が行われた。山下講師は、今後のインボイス制度の流れ及びスケジュールの説明や、具体的な実務対応を示しながら講義を進め、その後の質疑応答では、駐車場管理者等の個人事業主への対応など具体的な事例が取り上げられるなど、多くの質疑があり有意義な講演が行われた。講演終了後の交流会は、昨年同様に着座形式で、テーブル上にアクリル板を設置し、感染対策を徹底した会食による懇談となった。CIW検査業協会の安藤純二会長の力強い乾杯の音頭とともに歓談の輪が広がり、宴たけなわのところ三浦のぶひろ参議院議員、西村くにこ神奈川県議会議員の挨拶ののち、長岡康之理事長の中締めにより散会となった。



懇親会のもよう



渡邊 正宏支部長



山下 勇次講師

関西支部 令和5年新春賀詞交歓会を開催

関西支部（富田裕樹支部長）は、1月12日に大阪市北区のホテルグランヴィア大阪にて、3年ぶりとなる関西地区非破壊検査業界新春賀詞交歓会を開催し、非破壊検査に係わる行政、団体及び会員など93名が参集した。

冒頭に、富田支部長は「昨年を振り返り、6月 50周年記念式典と支部大会、9月 経営交流会、10月 合同例会開催と充実した活動が出来た。検査業界は、橋脚、道路、トンネル、石油化学プラント等の老朽化対策や、天然ガスや原子力等の脱炭素関連及び持続可能な社会インフラの確立に責任ある対応が求められており、深刻な人材不足のなかでの賃上げなど、諸問題に対して会員皆様からの意見や、知恵を出し合いより良い環境を整えて行く。」と挨拶した。

続いての来賓挨拶で、鰐淵洋子衆議院議員は社会インフラの整備を人間ドッグにたとえ、「専門技術者の実施が不可欠であり、令和5年度から国直轄道路橋点検をインフラ調査士等の資格保有者の実施が義務付く、安心安全を進めその先の地方まで波及していきたい。」と挨拶された。行政から、大阪労働局労働基準部の東裕之健康課長は治療と仕事の両立が求人活動に好影響を生み人材不足改善に繋がると、近畿経済産業局産業部の前原紀子製造産業課長補佐はDXの活用による業務の効率化について、近畿地方整備局の奥田晃久企画部長は大阪万博開催にふれインフラ整備などへの非破壊検査技術が不可欠であると、ご挨拶をいただいた。

その後、日本非破壊検査協会関西支部の川西省吾副支部長の発声による乾杯が行われ祝宴へと移った。来賓及び会員同士の歓談の輪が広がり、3年ぶりの祝宴が盛り上がった。錦戸陽介副理事長の中締めにより散会となった。



富田 裕樹支部長



賀詞交歓会のもよう

安全で安心な
生活環境を
目指して
非破壊検査と焼鈍工事の



ユキビルド 株式会社

〒210-0808 川崎市川崎区旭町 1-9-10

TEL:044-222-3222 FAX:044-201-6532

お客様と社員に信頼される
企業でありつづける



溶接検査株式会社

本社：〒985-0874

宮城県多賀城市八幡2-16-10

TEL：022-365-6040

FAX：022-366-3556

URL：http://yosetsukensa.com

出張所：青森・山形・秋田

放射性同位元素等安全管理委員会 令和4年度 大会・見学会を実施

11月18日、放射性同位元素等安全管理委員会は、兵庫県の播磨科学公園都市にある世界最高性能の放射光を生み出すことができる大型放射光施設SPring-8を見学した。電子ビームの加速エネルギーがおよそ50億電子ボルト（5GeV）以上の加速器を有する施設であり、放射光発生の原理や実験について、実物を見ながらの説明があった。その後、場所を移動して、ダイワロイネットホテル姫路会議室にて、委員15名、オブザーバ5名、事務局1名、オンライン参加2名の合計23名出席のもと、令和4年度大会を開催した。大会開催に先立ち日本アイソトープ協会放射線源課鈴木健二課長から、円安及び物価高騰等の影響を受け、2023年度のIr-192 370GBq線源の頒布価格上昇の見込みとの説明を受けた。会議では、令和3年度会計報告と事業報告、令和4年度活動計画と10月までの収支実績が報告され、全会一致で承認された。次に、放射線規制室管理官・文科省水戸事務所長を歴任し、現在は理化学研究所の杉山和幸先生による「放射性同位元素等規制法放射線測定器関連について」特別講演が行われ、各社から活発な質疑応答があった。

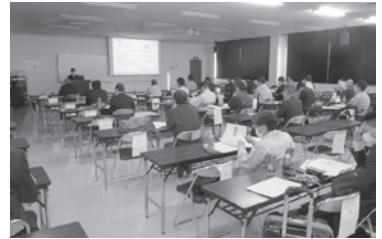


大型放射光施設 SPing-8の見学

引き続き、第1回委員会を開催し、指針-9「放射線測定器の校正手順」、指針-10「放射性輸送物の経年変化の考慮」作成案について審議をした。

令和4年度 西日本支部 技術交流会開催

11月11日（金）西日本支部は技術交流会を、JSNDI九州支部技術サロンとの共催で、九州機械工業振興会の研修室にて対面で開催し、21団体45名の参加があった。西日本支部は以下3件の発表を行った。



技術交流会のもよう

- 「タービンローター翼溝（Tルート）MTにおける磁化及び観察装置の開発」 三菱重工パワー検査 小西元氏
- 「MFR技術」 シーエックスアール 平原孝保氏
- 「ドローンによる目視検査適用事例&UTMDローンの開発」 ウィズソル 山口成利氏

発表後は、西日本支部の野口博文副支部長の挨拶で締めくくられ、盛況のうちに終えることができた。

KNOWLEDGE (知識)
ENGINEERING (技術)
CONFIDENCE (信頼)

— 営業種目 —
 超音波探傷検査
 X線撮影検査
 磁気探傷検査
 浸透探傷検査
 レーダー探査
 各種腐食検査
 自動超音波探傷検査
 その他非破壊検査全般

（一社）日本溶接協会（CIW）非破壊検査事業者認定
 非破壊検査業務全般

KEC 極東エンジニアリング株式会社

〒533-0006 大阪市東淀川区上新庄3丁目16番11号
 電話 (06) 6321-5500 (代表)
 FAX (06) 6321-5400
 URL <http://www.kyokuto-eng.co.jp/>

CIW認定 A種 想像から創造へ 今感動の技術
 労働者派遣事業許可
 ISO9001 認証 JMAQA-1749

株式会社ダンテック

- 非破壊試験検査全般
- 各種プラント保守点検
- 品質管理
- 建築・土木構造物調査診断
- 各種設備・配管劣化調査
- 破壊試験・化学分析等材料試験

本社 〒530-0043 大阪市北区天満4丁目14番13号
 TEL.06 (6354) 3641 FAX.06 (6354) 2707

SHK “診る”を究めて
 人と技術を「安全」という強固な絆で結び、「安心」を提供します。

新日本非破壊検査株式会社

営業本部 〒803-8517 北九州市小倉北区井堀4丁目10番13号
 TEL:093-581-1234 FAX:093-581-4567
 東京営業部 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町16-19
 渡林日本橋ビル 2F
 TEL:03-6661-1307 FAX:03-6661-1308
<https://www.shk-k.co.jp>

EVIDENT OLYMPUS

油や水が付着しても簡単に除去できる
 機械メンテナンスに特化した工業用ビデオスコープ

New 工業用ビデオスコープ **IPLEX G Lite-W**

株式会社エビデント ☎0120-58-0414 (フリーダイヤル) www.EvidentScientific.com

「赤外線調査車」の開発

1. はじめに

橋梁点検において赤外線サーモグラフィーを用いてコンクリート内部の空洞を検出する技術は広く使われている。従来の手法では可搬式の非冷却型赤外線サーモグラフィーを三脚に固定して対象物の調査を行っていた。しかし、都市部の高架橋は多層構造が多く、高架下に容易に進入する事が出来ない場所が多く存在する。点検のために高架下の道路を交通規制または通行止にした場合、渋滞により道路利用者に迷惑が掛かるだけでなく、経済的な損失にもつながる。

そこで、交通規制をすることなくコンクリート内部の空洞や鋼部材の腐食・欠損などの表面欠陥を検出する事を目的として、車両上部に高感度冷却型赤外線サーモグラフィーとハイスピードカメラを搭載し、時速50～60kmで走行しながら点検を行う「走行型赤外線調査車両」を日本アビオニクス(株)と共同で開発した。



写真1 走行型赤外線調査車両外観

2. 高感度冷却型赤外線サーモグラフィーとハイスピードカメラによる同期収録

赤外線サーモグラフィーによるコンクリートの内部欠陥の検出は対象物内部に空隙が存在すると、周囲の健全部に比べ温まりやすく冷めやすい特徴がある。しかし、赤外線サーモグラフィーに表示される「見かけの温度」は対象物表面の色や平滑具合によって異なる。例えば、雨水などの汚れにより表面が黒く変色していた場合、赤外線サーモグラフィーの画像では健全部に比べ高温に表示されるが、これは汚れにより赤外線の放射・吸収率が変化したもので内部の空隙（欠陥）ではない。



写真2 専用解析ソフト画面

そのような誤診を防ぐため赤外線サーモグラフィーの画像データ解析（診断）は、同一箇所の可視画像と対比しながら行うことが極めて重要である。

従来の撮影方法では三脚に赤外線サーモグラフィーと並べてデジタルカメラを固定する「スチール撮影」である事から同じタイミングで撮影が容易に行えるが、車載したビデオカメラと赤外線サーモグラフィーでは収録フレームレートを同一にしても録画開始のタイミングやデータ転送のタイムラグなど様々な要因により若干のズレが生じる。このズレが収録時の走行速度が高速になるほど、または収録時間が長いほどズレが大きくなり解析作業の足かせとなる。

そのような収録時のズレを防ぐため、赤外線サーモグラフィーとハイスピードカメラの撮影タイミングを完全に同期させる「同期収録装置」を開発し、さらに収録したデータを対比する形で解析が行える専用解析ソフトも作成した。

3. コンクリート内部欠陥の検出精度確認

従来手法の非冷却型赤外線サーモグラフィーによる点検結果と本システムを用いた点検結果を比較した。その結果、従来手法と遜色ない結果が得られ、特に赤外線サーモグラフィーの性能が非冷却型に比べ格段に高い事から、従来手法より鮮明にコンクリート内部欠陥を識別する事が可能となった。

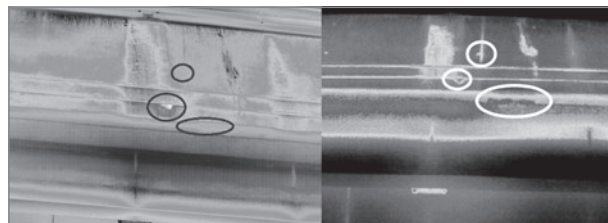


写真3 非冷却型サーモグラフィー(左)と本システム(右)による同一箇所の撮影データ

国土交通省は長さ2メートル以上の橋とすべてのトンネルについて、5年に1回の近接目視を基本とする点検を省令で規定している。道路法では、道路管理者が構造物を適切に維持・修繕し、一般交通に支障を生じさせない努力義務が規定されるが、道路規制が困難な現場での高所作業車による近接目視が難しい場合などがあり、走行型赤外線車両が実績をあげている。

問合せ先：株式会社 シンワ検査 調査診断部 佐藤 賢治

TEL:045-590-0780

FAX:045-590-0781

E-Mail:sato-k@shinwa-kensa.co.jp

HP:https://www.shinwa-kensa.co.jp/

磁性チューブ検査技術 MFRの紹介

1. はじめに

現在熱交換器に使用する伝熱管の保守点検では、渦電流検査や水浸超音波検査など、様々な検査手法が用いられている。対象となる伝熱管は大別すると非磁性管と磁性管に分けられるが、磁性管の検査手法は検査速度や精度においてそれぞれの課題がある。今回紹介するMFRは磁束抵抗を利用した肉厚測定技術で、磁性管に発生した腐食の検出能力が高く、また検査時間の短縮に有効な検査手法である。

2. 基本原理

MFRは、永久磁石とヨーク及び炭素鋼管によって形成される磁気回路中の磁束密度を、ホール素子で計測する。(図1)

管の断面積変化によって磁束抵抗が変化し、ホール素子から出力される電圧も変化する。この出力電圧を断面欠損率(%)に換算し、減肉発生範囲から減肉深さを算出する技術である。

3. 装置構成

検査機器は、MFR装置、パソコンとMFRプローブで構成する。

MFR装置は単三電池6本で8時間使用が可能のため、データ処理用パソコン電源の確保により、電源設備がない現場でも検査が可能である。(図2)

4. MFRの特長

炭素鋼管の検査に用いられている検査技術を表1に示す。一般的なチューブ検査では水浸超音波検査(IRIS)は超音波の伝播時間を計測するため高い測定精度を有しているが、検査速度が遅く抜取検査又は詳細検査に用いられる。リモートフィールド渦電流探傷試験(RFECT)は検査速度が速いものの測定精度がIRISより劣るため、概ねスクリーニング検査に用いられる。MFRは他のスクリーニング検査技術と同等またはそれ以上の検査速度でありながらIRISに迫る測定精度を有しており、多数の検査対象管を精度良く検査したい場合に有効である。

表1 他磁性管検査手法との比較(当社比)

測定方法	IRIS	IRISプラス	RFECT	MFR
原理	超音波水浸法	超音波水浸法	渦電流間接地場測定	磁束抵抗法
精度	平底穴φ1.0mm以上	平底穴φ1.0mm以上	φ3.0mm貫通穴以上	φ2.0mm貫通穴以上
速度	5m 50-80本/日	5m 80-120本/日	5m 250-350本/日	6m 300本/日
スケール除去	要	要	要	不要 ※1
チューブ-プローブ間ギャップ	1.5mm~2.0mm	1.5mm~2.0mm	2mm~4mm	1.0mm以下 ※2
媒質	水	水	不要	不要

※1 対象チューブ内にMFRプローブの挿入が困難な場合は、スケールの除去が必要。
 ※2 チューブ内面とプローブ外面距離が1mmを越えた場合、磁化力が不足し精度が低下する。

5. おわりに

MFRは2018年に初期段階での検証が終了し、2019年からフィールドでの顧客デモンストレーション及び、実機での検証を重ねてきた。

この間、腐食形状による解析モデルの追加や解析ソフトの変更を住友化学殿から供与いただき、現在に至っている。

お客様からは1日あたりの検査本数が多くまた精度の良い検査が可能なMFRに対する期待は高く、今後期待に応えるため更なるブラッシュアップを行ない、設備の安定運転に寄与できる技術の提供を行いたい。

【実機デモ及び検証実績 / 2022年7月現在】 熱交換器 25基及びエアフィンチューブ機器 3基 チューブ検査本数 11,262本

※ MFR (Magnetic Flux Resistance) とは住友化学(株)生産安全基盤センター殿の特許(登録)技術

参考文献1) 住友化学エンジニアリング規格 保全企画 磁束抵抗法検査基準 (MFR:Magnetic Flux Resistance)

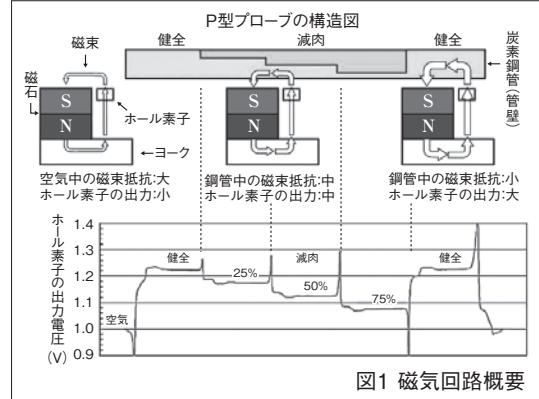


図1 磁気回路概要

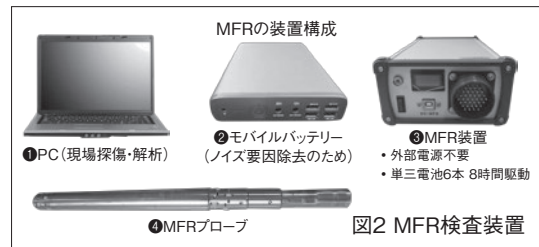


図2 MFR検査装置

問合せ先：株式会社シーエックスアール 技術本部・第4事業部 三浦 浩通
 TEL：0846-23-1230 FAX：0846-23-1235 E-Mail：miura@cxr.co.jp HP：https://cxr.co.jp/

対外活動報告

非破壊検査業並びに非破壊検査機器及び材料等の製造・販売業の健全な発展を図るために、対外活動を推進している。令和4年度は、例年に引き続き、公明党非破壊検査技術振興議員懇話会での政策要望を中心に、兵庫県、大阪府、広島県及び福岡県での政策要望を展開した。主に、橋梁等の定期点検工事において公共工事の品質を確保するために国土交通省の登録資格者であるインフラ調査士の活用を要望した。なお、国土交通省と建設コンサルタンツ協会との技術交流会を開催し、インフラ点検への非破壊検査技術の活用による効率化等に関して意見交換を行った。また、高速道路における落橋防止装置の手探傷による超音波探傷試験に関し、検出レベルの統一を図ることを議員懇話会として国土交通省の技監に要望し、「L線レベルで統一する」こととなった。

一方、非破壊検査業界の人材確保の観点から、東京都職業能力開発課に対して、職業能力開発センターに非破壊検査科を設置して職業教育を図るよう要望した。

今後、各部会並びに関連委員会等による対外活動を通じて、非破壊検査業界の発展に寄与する活動を継続していく。

月日	項目	概要
8月26日	公明党兵庫県本部 政策要望懇談会	インフラ調査士の活用について
9月1日	公明党非破壊検査技術振興議員懇話会 会長訪問	落橋防止装置の超音波探傷について
9月2日	公明党大阪府本部 政策要望懇談会	インフラ調査士の活用について
9月3日	公明党広島県本部 政策要望懇談会	インフラ調査士の活用について
11月16日	厚生厚労省から放射線防護に関するアンケートへの協力をお願い	IAEAからNDT事業者に対するアンケートの依頼
11月19日	公明党福岡県本部 政策要望懇談会	インフラ調査士の活用について
11月29日	東京都職業能力開発課への要望	非破壊検査科を設置する要望
11月29日	国土交通省との意見交換会	橋梁点検における非破壊検査の適用性、有効性等に関する意見交換
12月8日	国土交通省 技監要望	高速道路における落橋防止装置の手探傷による超音波探傷試験について
12月21日	公明党非破壊検査技術振興議員懇話会	落橋防止装置UT、建設コンサルタンツ協会との意見交換について
1月23日	国土交通省、建設コンサルタンツ協会との技術交流会	インフラ点検に関する意見交換



公明党広島県本部 政策要望懇談会のもよう



公明党非破壊検査技術振興議員懇話会のもよう



国土交通省、建設コンサルタンツ協会との技術交流会のもよう

小型・軽量で大画面

ポータブル超音波探傷器
USFD-20

★UT実技試験 持込認定探傷器★

- ・一般社団法人 日本非破壊検査協会
- ・一般社団法人 鉄骨技術者教育センター

安心の2年間製品保証!
(最長5年までの延長契約あり)



寸法: 198×128×52 mm
重量: 0.84kg (バッテリー含む)

INDEX 株式会社 KJTD

総機・倉庫 〒578-0912 大阪府東大阪市角田1丁目9番29号
大阪事業所 TEL (072)965-6231(代) FAX (072)962-6236
Email: usfdinfo@kjtd.co.jp URL: www.kjtd.co.jp



サンコウの測定器・検査機器

非接触膜厚計コートマスター FLEX

◆ウェット／乾燥状態の
コーティング層を非接触で
測定可能!



SANKO 株式会社 サンコウ電子研究所

東京: 03-3254-5031 大阪: 06-6881-1230 仙台: 022-292-7030
名古屋: 052-915-2650 福岡: 092-282-6801

URL <https://www.sanko-denshi.co.jp>

第17回 インフラ調査士一次試験を実施

11月17日学科試験（一次試験・再試験）が
関東・関西で同時に行われた。

【学科試験】新規受講・受験者数：72名、
再試験者数：21名

【二次試験】2月9日～10日 試験会場：川崎市産業振興会館（神奈川県川崎市幸区堀川町66-20）

資格	橋梁 (鋼橋)	橋梁 (コンクリート)	道路トンネル	付帯施設
受験者数	76名	77名	75名	85名
合格者数	67名	52名	57名	78名

第29回 配筋探査技術者資格試験を実施

12月1日「コンクリート構造物の配筋探査技術者資格認証学科（一次）試験」が実施された。受験者情報は表のとおり。

学科（一次）試験結果						
	関東	関西	九州	受験者 合計	合格者	合格率
新規受験	56名	59名	11名	126名	76名	60%

実技（二次）試験日程予定			
受験地	関東(川崎市)	関西(大阪市)	九州(北九州市)
日付	2月20日～22日	2月13日～14日	2月1日

■講習会開催情報	インフラ調査士講習会	[教育部会]	10月14日	オンライン (Zoom) 講習会	受講者 74名
	配筋探査オンライン講習	[教育部会]	10月11日～28日	eラーニング	受講者 98名

本部

■会員動向 令和5年1月31日 現在197社（東日本支部77社、関西支部43社、西日本支部44社、機材支部33社）

■退会 ■東日本支部 北州検査株式会社 令和4年9月30日付

安全部会 ～令和4年度の安全衛生標語選出作品～

(敬称略)

安全標語	優秀賞	日本工業試験所 田村 和彦	あせらず 無理せず 再確認 手順を守って	ゼロ災職場
	優良賞	東洋検査工業 富村 幸夫	焦るな・せかすな・急がすな 慌てた時こそ 一呼吸 皆でつくる	ゼロ災職場
衛生標語	優秀賞	北陸非破壊検査 高倉 弘和	整えよう 体と心のコンディション	みんなで作る快適職場
	優良賞	東洋検査工業 人見 光策	健康は あなたと家族の 宝物	ゆとりと笑顔の 快適職場

MICROTEK
SCAN THE WORLD

フィルムデジタイザーシステム

NDT-2000

特長

- ISO14096 準拠フィルム濃度0.5～4.5まで対応
- 分解能 最大1200dpi (21μm)
- 幅2.5～14インチ、長さ2.5～200インチのフィルムサイズに対応
- 軽量コンパクト設計
- 150(170)～1200dpi (21μm) で読み取り分解能が選択設定可能

※NDT-2000は画像処理ソフトPIAにて操作を行います。

Pony **ポニー工業株式会社**
www.ponyindustry.co.jp
大阪 TEL 06-6262-6510 東京 TEL 03-5472-1091

ISO 9001 認証取得
JMA JAB

ケーブルレスのLEDブラックライト

紫外線探傷灯

スーパーライト C-10LB

MARKTEC
マークテック株式会社 営業部
【東京】03-3765-1712
【大阪】06-4861-3700

新登場

非破壊検査機器の販売・修理・校正・レンタル

工業用X線発生装置 超音波探傷器USM100 超音波厚さ計DM5E

支える、の一番近くに。

RIKOH-S 理工サービス株式会社

〒733-0035 広島市西区南観音6丁目3番10号
TEL：(082)292-2552 (代) FAX：(082)295-0566
E-mail:rikoh@rikoh-s.com URL:http://www.rikoh-s.com/

VIEWWORKS

非破壊検査用フラットパネル検出器

新発売!
IGZO TFT 製品

静的検出器 動的検出器

日本ビューワークス株式会社
1350064 東京都江東区青海 2-4-32 タイム 24 ビル 4階
TEL 03-5579-6516 www.viewworks.co.jp